

原子力友の会 総会（第11回） 議事録（案）

開催日時：2022年10月15日（土）15：00～17：30

方 式：対面とオンラインのハイブリッド

場 所：新10号館5階 原子力安全工学科学学生実験室 & Zoom ミーティングルーム

案内配信数：270名（校友会事務局にて管理されている本会のメールアドレス登録のある会員数）

出席者（敬称略）：[対面] 本多庸郎、山野俊也、川久保政洋、梁瀬久史、秋山輝、菅野正行、松本裕人、吉川将志、鈴木徹、中村いずみ、松浦治明、羽倉尚人

[オンライン] 大鳥靖樹、牟田仁、三上直希（15名）

配布資料：【原子力友の会】第11回総会資料(配布用)一式 R00.pdf

議題及び報告

1. 本多会長挨拶

久しぶりに対面で開催できたことは喜ばしいことである。震災後の2011年11月に発足した本会は11年目となった。国内外のエネルギー・電力供給の問題を考えると原子力発電は引き続き重要な役割を果たすと思われるので学科には引き続き人材育成の面で頑張ってもらいたい、とお話を頂いた。

2. 前回総会からの主な出来事

前回議事録の確認を行い了承された。2021年4月以降の本学における出来事についての紹介があった。

3. 「原子力友の会賞」について

2021年度は6名に授与したことの紹介があった。また、2022年度の発表会における審査についても例年通り実施することが確認された。第1回からの受賞者と発表タイトルの一覧が紹介された。

4. 幹事会の確認

現在の幹事会名簿を確認した。発足当時から変わっていないことについて、そろそろ幹事会の体制についても見直す必要があるのではないかと意見があった。コロナの影響もあり会合が実施できない状況が続いてきたが、徐々に緩和されているので、年度内には一度幹事会を開催することを検討することとした。

5. 会計報告

2021年度の収支報告がなされ、承認された。

6. 活動計画／予算計画

友の会賞の審査及び授与以外の計画については、不確定な部分が多いので、幹事会に一任することとなった。学生の活動支援について2022年度には行ったが、来年度以降も継続するのかという質問に対し、具体的に決まっていることはないので活動計画・予算計画の中にも含まれていないが、学生の活動支援については継続したいと考えているとの話があった。また活動支援の結果については講演会の部で紹介があることが示された。学科では放射線取扱主任者試験の合格者に対して補助を行っているのかという質問があり、これまでは学科に対する寄付金を活用して補助を行っていたが、その財源が枯渇した状況にあることが説明された。友の会の予算の活用先として学生への補助に使ってはどうかという意見があった。今後幹事会で検討することとした。

7. 最近の本学及び原子力安全工学科の状況について

学科主任教授・鈴木徹先生からのご説明に先立ち、司会の羽倉から 2021 年度に本学科として JABEE（一般社団法人日本技術者教育認定機構）審査を受審し認定された旨の紹介があった。それに関連して、学科の学修要覧にて定めている「目指す技術者像」について卒業生の皆様からのご意見を頂きたいと依頼があった。引き続き、鈴木主任教授よりスライドを使って最近の本学及び学科の状況について紹介があった。入学志願者数が近年順調に伸びていることや主な就職先についても紹介があった。

8. その他意見交換

今回の総会の案内はどのようにされたのかという質問があり、校友会の事務局経由でメールにて案内をしたとの回答があった。周知の仕方として案内を郵送するという方法を取ってはどうかという意見があり、今後検討することとした。

以前は学位授与式において原子力友の会賞を授与する際に原子力友の会のことを少し紹介することができたが、ここ最近ではコロナの影響で会長が出席し挨拶することができなくなっている。今年度はできるとよいのではないかという話があった。



会場の様子（新 10 号館 5 階 原子力安全工学科 学生実験室）

以上

【講演会の部の紹介】

総会に引き続き、講演会の部として学生、卒業生、教員からそれぞれ1件ずつご講演頂いた。

学生からは、閃源会会長の学部3年生・吉川将志さんが「6月13日福島第一原発見学会事後報告」と題して、原子力友の会からの活動支援を受けて実施した東京電力福島第一原子力発電所への見学会について報告があった。詳細な見学内容に加えて、参加した19名の学生が見学前後でどのように意識が変化したかアンケート調査を分析する形で説明された。日帰りの限られた時間での見学であったが、廃炉について具体的なイメージを持ち、また関心を高めることにつながったとのことであった。

卒業生からは、2010年3月に環境エネルギー工学科を卒業され、同年4月に共同原子力専攻の第1期生として入学し、現在は原電エンジニアリング株式会社にて勤務されている松本裕人さんにご講演いただいた。学生に向けて業務内容のご紹介と目指す技術者のイメージについてお話しいただいた。お話の中では、「技術の追求度合い」と「課題対応行動パターン」をそれぞれ縦軸・横軸に取り、電力事業者、メーカー、研究機関がどこに位置するのか、どういったスキルを持った人がどのあたりで活躍しているのかを紹介し、業界からその他大勢ではなく一人の技術者として認識されることが大切だと思うとお話された。

教員からは、2021年度に着任された中村いずみ先生に「配管系を対象とした構造健全性評価に関する研究」と題して、これまでに取り組まれてきた研究の一端をご紹介いただいた。荷重と変位の関係において限界状態の把握と設計で利用できる範囲の拡張という点に着目し研究を進められているというお話に対して、メーカーに勤務し実際に機器設計に携わっている卒業生から非常に興味深いと感想が述べられるとともに、規格基準に関連して詳細な質問のやり取りがなされた。

今回は、現役の学生、卒業生、そして教員による講演を企画した。この10年で学科の教員はほぼ入れ替わり、卒業生にとっては馴染みのある先生がいない状況となっている。現在の教員を紹介する機会としても有効に活用していければと思う。また、卒業生から学生へ向けたメッセージは、現在の社会が求める技術者像を示しているといってもよい。JABEE認定を受け、継続的な教育改善に取り組む学科としても、こうした卒業生の声を聴く機会として、また、学生に聞いてもらう機会として活用していくことが重要ではないかと考えている。

(文責：羽倉)